

DIGITABLE 第 48 回勉強会レポート

2011 年 9 月 17 日 於：森下文化センター 第一研修室



Digitable 基礎講座「レイヤーと調整①」：高木大輔講師

参加者全員による“ライトニングトーク”（持ち時間 5 分）

Photoshop 研究講座「各種用紙と印刷結果」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 基礎講座 第 5 回

レイヤーと調整①：高木大輔講師

○レイヤーとは？

レイヤーとはある画像の上に別の画像を重ね、かつ、お互いに影響されることなく、それぞれの画像を任意に編集、エフェクト（効果）をかけることのできる Photoshop ならではの革新的な機能だ。

またこのレイヤーは上下関係を自由に移動でき、不要なレイヤーを消去したり、任意の位置に挿入することができる。

○レイヤーの効果

レイヤーは単純に切り抜いて重ねるだけでなく、さまざまな画像を重ねる効果が選べ、またその透け具合が「不透明度」の%で調整することが出来る。

○レイヤーを利用した合成

レイヤーは単純に上下に重ねるだけでなく、重ね具合（透かし具合）の濃度の調整や、さまざまな透かしの効果が選択できる。またキッチンと切りぬいた画像ばかりでなく、ある程度エッチをぼかしての合成も可能だ。

○調整レイヤーとは？

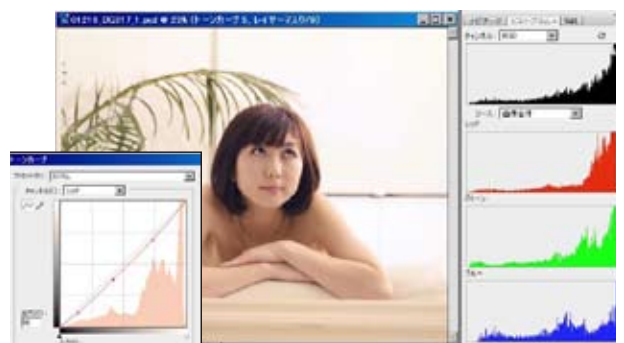
「レイヤー」パレットには、画像を合成するだけでなく「補正」するための機能も搭載されていて、「調整レイヤー」と呼ぶ。

実際に合成作業をすることは稀でも、こちらの方は日常の作品づくりに生かせるだろう。

「調整レイヤー」は「レイヤー」パレットに補正のレイヤーが作られ、適用の効果も濃度も自由に変えられ、画面の部分的に効かせることも可能だ。しかも補正のレイヤーをダブルクリックすればいつでも補正内容の修正が行えるという便利なものだ。



レイヤーは上下関係を自由に移動でき、不要なレイヤーを消去したり、任意の位置に挿入することができる



「調整レイヤー」は「レイヤー」パレットに補正のレイヤーが作られ、適用の効果も濃度も自由に変えられ、画面の部分的に効かせることも可能だ

参加者全員による「ライトニングトーク」

(各自持ち時間 5分)

KSさんは網代合宿でのモノクロ作品。

IFさんは合宿前に立ち寄った下田などでの作品。

KKさんは青森ねぶた、秋田角館など祭りの写真。

AYさんはモノクロのセピアっぽい習作を披露。

MMさんは多重露光での写真をプリントで。

STさんは網代での作品。

SYさんはペーパーボードプロトタイピングのあれこれ。

...

Photoshop 研究講座 平野正志 講師 「各種用紙と印刷結果」

○レンズフィルターとは？

各用紙の印刷効果を比較研究する。

カラーチャート、グラデーションチャートを作りサンプル画像と共に台紙に張り付け、使用した各用紙の印刷設定の解説とパッケージ画像を用意し、各用紙の印刷ごとに適合した物に交換して印刷した。

サンプル画像はカラー印刷用と、モノクロ印刷用に別のものを用意し、各用紙には同一条件のもとに印刷してみた。

用紙パッケージの写真とそれぞれの印刷設定の説明を用紙ごとに修正しながら、該当する用紙に印刷する。

基本的には印刷は同じ条件になるように気をつけた。

同一用紙にカラーデータとモノクロデータの印刷を試み、それぞれの特性を見てみた。

光沢感、用紙の厚みなどにより価格単価は大きく異なった。各社光沢紙の中にも高級、普通などのグレードの差をつけて発売している様子も見える。どれが良いかは比較によるしかないが、さほどの大差はないように感じられる。

20種ほどの用紙をプリントしてみると、白い用紙といっても様々な白色があることが分かる。少し黄色味のあるもの、薄いマゼンタや青を感じる白、もっとも白に近いものなど、紙の地色が大きく異なる。

一方印刷結果は微妙に異なるもののさほどの遜色は感じられないようだ。

結局、用紙選びの選択肢は、厚み、地色、光沢感などが考えられる。好みや使いかって、どちらかといえば慣れという部分も大きな要素かもしれない。



今月の1枚：MM 会員発表に刺激され、「多重露光」を勉強会中に早速試してみる



平野正志 講師



同一用紙にカラーデータとモノクロデータの印刷を試み、それぞれの特性を見てみた